

市長室から（3月17日記）

子どもたちは未来への希望

ようやく春らしい日差しが感じられるようになりましたが、市民の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

この冬は、雪が少なく体には負担の少ない冬でした。

こうなると、今年の夏は水不足が心配されますが、今のところ、桂沢ダム湖の水量は昨年より若干少ない程度の貯水量と聞いております。

また、今後の降雨の予測ですが、気象台の3カ月予報では、例年並みに降雨がある見込みとのことであり、5月初旬での貯水量は、平年並みを確保できる見込みとのことです。

さて、昨年は三笠市にとって大きな変化がいろいろと生まれた年でありました。

まずはダム事業が本格的に始まり、弥生の学校跡地に工事事務所と宿舎が建設され、現在250人ほどの方が働いています。

また、岡山地区には、現在ホテル建設が進められているほか、道の駅の食の蔵も増設されています。

近くの民間住宅団地は完売され、さらに道営住宅の建設が決定するなど大きな動きを見せており、三笠地区においても、民間アパートが9棟62戸の建設がされ住宅ブームとも思える状況です。このことは本市の場合、移住政策に魅力を感じていただいております、結果として転入者も多くなっている状況が生まれているため、他の市町村に比べても、効果的なまちに見られている結果だと言えます。

また、こうした移住効果が出ているのは、子育て支援策が充実していることも大きな要素であり、小中学生のスポーツに野球は日本ハム、サッカーはコンサドーレ、三笠中学校の吹奏楽には札幌交響楽団と、それぞれプロから指導していただいております、このほかにも、学力向上のための「未来塾」や親子で学ぶ「英語教室」も行われるなど、子どもたちの未来に向かって、夢を叶える工夫がいろいろ整っているからだと考えています。

昨年10月末に、三笠吹奏楽オータムコンサートが市民会館で開催され、三笠小学校の児童で結成しているウインズアンサンブルが三笠中学校の生徒とともにコンサートを初めて行いました。とても素晴らしい演奏を聴かせていただき、その子供たちが中学校に進んで、吹奏楽に参加することを想像すると、嬉しくも心強く、また頼もしくも思いました。

子供は、今を生きる私たちの力の源であり、未来への希望であります。精一杯自分の人生を生きてほしいと誰もがそう思うのではないのでしょうか。

三笠市は、そのために全力で応援し、将来、社会のために、何より三笠のために役に立っていただける人材を育てていきたいと考えています。

私は、大きく育ちつつある三笠高校の実績、来年オープンを予定する高校生レストランを三笠の発展の芽として捉え、現在生じている市内の変化と相乗するよう連動させていきたいと考えています。

人口の確保は、市民の皆さんの日常生活環境を守るためには絶対必要です。

また、人口が一定程度確保されていなければ、国や北海道への要望などにも説得力を失い、実現が難しくなる恐れがあります。人口は、その地域の力です。

そのためにも、子供の将来を希望に満ちたものにする努力を、市として身の丈にあった範囲で続けて行きたいと考えています。

（広報みかさ平成29年4月号に掲載したものです。）